

信大病院 21C

ハミングク



No.80

2017.9.11

基本理念

本院は診療・教育・研究を遂行する大学病院としての使命を有し、また患者さんの人権を尊重した先進的医療を行うとともに、次代を担う国際的な医療人を育成する。



撮影場所：白駒池

主な記事

- 台湾高雄市立小港病院と覚書を締結しました …… 2
- 台湾・高雄市立小港病院との交流がはじまりました … 2
- 「包括先進医療棟」の建設が着々と進行しています … 3
- 入院食のご紹介
～患者さんにお食事が届くまで～ …… 4
- 第43回 松本ぼんぼん 2017 …………… 5
- 科学で解き明かす栄養 Evidence-based Nutrition …… 6
- 常念診療所での活動…………… 7
- ご意見箱からの声 …………… 7
- 電話番号表・編集後記 …………… 8

シャオガン

台湾高雄市立小港病院と覚書を締結しました

信州大学医学部附属病院は、台湾高雄市立小港（シャオガン）病院と人的交流や学術交流に関わる覚書を締結しました。

両院は松本市と高雄市が平成27年7月に健康・福祉・教育分野の交流に関する覚書を締結して以来、交流を重ね、昨年11月に小港病院のホウ・ミンフォン病院長らが来訪した際に病院間の連携を進めたいとの意向に



より話し合いが持たれ、今年3月6日に当時の本郷一博病院長一行（6名）が小港病院を訪問し、覚書締結に至りました。

小港病院は高雄医学大学の4つの附属機関の一つで、496床、20診療科の急性期医療を担う病院です。常勤職員数は、医師95人、看護師445人、事務職員を含むメディカルスタッフ273人で、モバイル看護システム、リモートデジタル化診療サービス及びリモート医療看護などを導入し、ハイテク医療及び国際医療を目指しています。過去10年の論文数（IF5.0以上）は94編と多く、多くの学生実習を受け入れる地域の教育研究機関としての役割も果たしています。

信州大学医学部附属病院では、海外との覚書締結は初であり、今後、相互の連携を継続・強化することで、信州大学医学部附属病院の国際化や医療水準の向上が期待されます。

シャオガン

台湾・高雄市立小港病院との交流がはじまりました

看護部長 伊藤寿満子



信大病院では、7月3日から13日までの10日間の日程で、高雄市立小港病院の20～30代の医師1名と看護師2名の計3名を研修生として受け入れました。日本の救急医療や重症患者ケアを学ぶことを目的として、看護師宿舎に宿泊しながら、集中治療室や高度救命救急センター、脳血管内治療センター等で研修を行いました。医療設備等においてはそれほど差はないようでしたが、「患者さんのために各職種が情報を共有し、連携し医療を行っている」「医師や看護師のチームワークが素晴らしい」等、実際に体験したからこそ見えてきた感想と、台湾に帰国後は日本で行われているカン

ファレンスのやり方をぜひ取り入れたいと抱負も語っていました。

国により保健医療の仕組みや働き方等違いはありますが、医療の専門職として患者さんの回復を願い最善の医療・看護を提供したいという志は同じです。言葉の壁は少々ありましたが、お互いにリスペクトしながら交流し、多くのディスカッションが出来たことは、双方にとって有意義な時間でしたし、また日本の医療や看護の素晴らしさを発見する貴重な機会でもありました。次は信大病院から台湾の小港病院へ研修生を派遣し、両病院の連携がますます発展していくことを期待しています。



「包括先進医療棟」の建設が着々と進行しています

病院機能強化係 宮尾 勇人

現在、病棟南側に建設中の新棟「包括先進医療棟」ですが、平成30年4月の運用開始に向けて順調に工事が進んでいます。病棟から工事現場がよく見えますので内部が気になる方も多いと思います。

包括先進医療棟は、本院の基本理念である「診療・教育・研究の遂行」、「患者さんの人権を尊重した先進医療」そして「医療人の育成」を体現するとともに、より高度な医療をより多くの患者さんへ提供することをコンセプトとしております。



包括先進医療棟全体写真

具体的にはハイブリッド手術室やスマート手術室などの最先端の手術設備の導入や、集中治療室（ICU）、周産期医療（分娩や新生児治療）、MRI検査室、信州がんセンターといった施設・設備の拡張や充実が行われます。完成により次世代の高度な手術・検査が可能となるとともに患者さんの待ち時間の短縮にもつながることになります。



信州がんセンター待合室



北中央診療棟との接続通路

また、包括先進医療棟で実際に診療に携わる医師や看護師による現場視察も随時行われております。

皆で意見を出しながら、患者さんがより快適な医療を受けられる新棟の完成を目指しています。



NICU

建設中は、一部騒音や振動など信州大学医学部附属病院をご利用の皆さま、地域の皆さまにはご迷惑をおかけする場合がございます。

完成まで、何卒ご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。



入院食のご紹介

～患者さんにお食事が届くまで～

臨床栄養部 丸山 夏佳

入院中の食事は治療の一環であり、病気に勝つために必要な体力を養い、栄養を補給するという役割の他に、楽しみや喜びなど心の栄養にもなると考えます。当院では、大量調理施設衛生管理マニュアルをもとにした安全・安心を基本に、患者さんに美味しい笑顔が届けられるような食事の提供を心がけています。今回は、患者さんに食事が届くまでを少しだけご紹介します。

入院患者さんの食事……入院患者さんの食事は、医師の指示に基づき提供しています。電子カルテから食事の指示の情報を受け、食事の数を把握し、調理師を中心に調理を行っています。病態に応じて特別な対応が必要な患者さんの食事は、1人1人違う指示内容を管理栄養士・栄養士が全て確認し、栄養価計算や調理等を行っています。



指示内容を確認中

献立会議……日々のメニューは献立会議で話し合っ
て決めています。調理師・管理栄養士・栄養士・配膳
スタッフなど、食事提供に関わるスタッフが集まり、
味、見た目、季節感など、意見を出し合います。患者
さんからご意見をいただくことがあれば議
題に挙げ、より良い食
事を提供するためには
どうしたらよいか検
討しています。



献立会議の様子

食材の納品……食材の納品は信頼のおける納入業者
さんをお願いしていま
す。食品の安全・安
心をチェックし、品質
の良いもののみを使
用しています。



品質をチェックしている様子

下処理……納品され
た食品は新鮮なうちに
調理します。野菜や果
物は綺麗に消毒し、そ
の日の献立に合わせて
切り方も変えます。



メロンを切っているところ

調理……当院のベッ
ド数は約700床。それ
だけの患者さんの食
事を作るために大きな
調理器具を使用して
います。



かぼちゃが煮えました

盛りつけ～配膳車……
できあがった料理は
器に盛りつけ、ベル
トコンベアーを使っ
て各患者さんの指
示内容に合わせてト
レーにセットします。



トレーに料理をセット中

病棟に配膳……食事は温冷配膳車に入れ、食事専用
のエレベーターを使っ
て各病棟にお届けして
います。温冷配膳車は、温
かい料理は温かく、冷
たい料理は冷たい状
態で患者さんに料理
をお届けするための
車です。



温冷配膳車

行事食……入院生活の中でも楽しみを持っていただ
くために、四季折々の行事食を企画し、好評いただ
いています。

- 年1-2回 病棟バイキング
- 週1回 お子さまランチ
- 月1回のグレードアップ食
- 季節の行事食
- 月1回 松花堂弁当



7月の松花堂弁当「七夕弁当」

第43回 松本ぼんぼん 2017

信州大学医学部附属病院連 副連長 神田 博仁



8月5日(土)の夕方から「松本ぼんぼん」が松本市街地で開催されました。松本の夏は「松本ぼんぼん」を踊らないと夏じゃないというくらい定着したイベントです。信州大学医学部附属病院連は、事務系職員が核となり、医師、看護師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、管理栄養師、診療放射線技師、臨床工学技士、薬剤師、ボランティアさんなどの病院スタッフ総勢180余名が、赤い法被とTシャツ姿で、うちわを片手に踊りに参加しました。今年は梅雨明け後の天候が安定せず、天候が心配されましたが、当日は晴れ。気温も上がり、夕方6時でも30℃と暑い中での踊り開始となりました。今年の連の目玉は、なんとといっても本田病院長。信大病院のプラカードを持ち、リズムに合わせて振り上げながら、連を先導します。その後を伊藤看護部長を中心とし

た踊りの列が続きます。駅前大通りの本町交差点付近をスタートし、本町通りを松本城に向かって元気な掛け声とともに、パワー全開で進みます。連は、本町から右折して中町を東へ進み、折り返して女鳥羽川沿いを戻って、千歳橋、大名町と踊りの中心部を進んでいきました。今年は大通りを踊る時間が長く、例年にも増して、踊りに熱が入りました(どこの通りを踊っても信大病院連の踊りは熱いのですが...)。幸い、夕立や雷もなく、最後まで踊りきることができ、日頃、交流の少ないスタッフ同士がひとつになれる良い機会となりました。また、周りの踊り手、観客の方々と大いに盛り上がることもできました。踊りコンクール審査での受賞は今年もありませんでしたが、来年こそは一条乱れぬ華麗な踊り?を披露し、受賞目指して、病院一丸となっていきたいと思ひます。



第6回 豊かな食生活とあなたの 素敵な笑顔を守るために歯を大切に

「ハチマルニイマル」をご存知でしょうか。平成元年より厚生省（当時）と日本歯科医師会が推進している「80歳になっても20本以上自分の歯を保とう」という運動です（参考文献1）。そこで今回はハミングNo.80と8020運動をかけて、口腔健康状態と食品摂取量との関わりについてご紹介します。

1. 口腔健康状態はなにで判断したのか

みなさんは義歯を使用していますか？その義歯は定期的にメンテナンスされているでしょうか。研究で使用した口腔の健康状態を判定する方法を図1に示しました。犬歯より後方の噛み合わせは大丈夫か、義歯（ブリッジや取り外し式の入れ歯）を使用しているのか、歯の欠損部は義歯で補われているのかなどから口腔健康状態を判断しています。注目したいのは、義歯を使用している人たちにその義歯があっているかを探っている点です。

この研究で用いられた口腔健康状態の指標は何か

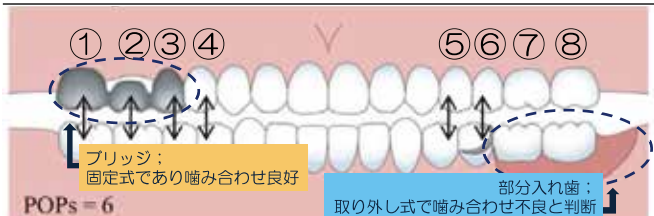


図1 口腔健康状態の判断はどうやったのか？（参考文献2より作成）

POPs¹⁾に加え、永久歯なのか義歯なのか、欠損歯は補綴されているのか、義歯が適合しているかと思っているのかなどを総合して口腔の健康状態を判断しています。

1) POPs：POPs (posterior occluding pairs) とは、犬歯より後方にある8対の歯を指しています（形式的に①～⑧の番号を振りました）。親知らずは含めません。POPsは数字が大きいほど咬合状態（噛み合わせ）が良いと判断します。最も良い状態が8で悪い状態が0になります。この図では、①～⑥までは噛み合わせが良好で、⑦～⑧は取り外し式の部分入れ歯の噛み合わせが悪くなっていると判断して、POPsは6となります。

2. 義歯の調整が食品選択に影響する？

図2は80歳の男女を対象に口腔健康状態と食品の摂取量との関係を調べた結果です。噛み合わせがすべて良好で義歯も使っていない人たちを「良い状態」、欠損歯を義歯で補っており、その義歯が合っていると答えた人たちを「適合した義歯」、合っていないと答えた人たちを「義歯不適合」、歯が失われたまま過ごしている人たちを「歯の欠損あり」の4群にわけ、食品の摂取量との関連を調べています。

良い状態の人たちと比べて、義歯不適合と歯の欠損ありの人たちは野菜類と魚介類の摂取量が明らかに少ない状態でした。適合した義歯の人たちは摂取量に差はありませんでした。図にしていますが、ご飯や豆類、種実類、果物、肉、菓子類の摂取量はすべての群で差はありませんでした。

口腔健康状態の違いは食品の摂取量に影響するのでしょうか

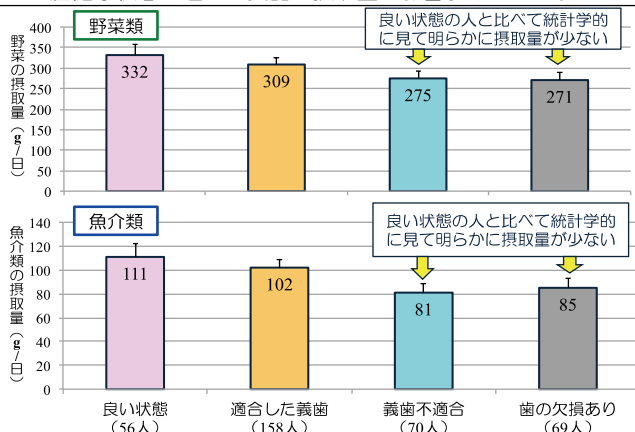


図2 口腔健康状態と野菜類、魚介類摂取量との関連（参考文献2）

80歳の日本人男女（男性174人、女性179人）を対象に、口腔健康状態と食事歴法質問票で食品の摂取量を調べた横断研究の結果です。口腔健康状態はPOPsと義歯使用の有無、補綴状況、義歯の適合状況（自己申告）で次の4群に分けました；1) 良い状態（POPs=8、義歯無し）、2) 適合した義歯（POPs<8、義歯がよく適合していると自己申告）、3) 義歯不適合（POPs<8、義歯が不適合だと自己申告）、4) 歯の欠損あり（POPs<8、義歯無し）。食品の摂取量は最少二乗平均土標準誤差で表しました。性別や収入、学歴、喫煙習慣、飲酒習慣、体格指数、エネルギー摂取量など他の要因が食品の摂取量に与える影響は統計学的にとり除いてあります。

3. 歯科医院を定期的に受診して歯を健康に

これまでに歯の本数が食品の摂取量と関わることが報告されています（参考文献3）。さらに今回の研究から、義歯を使用していても、それが適合していなければ同様に食品の摂取量に影響してしまう可能性がわかりました。特に、野菜類や魚介類の摂取量は明らかに減ってしまうようです。

いつまでも様々な種類の食品を食べるために口腔の健康状態を保つことが大切です。また素敵な笑顔は人に元気を与えます。あなたの豊かな食生活と素敵な笑顔のために、定期的に歯科医院に通って歯を健康に保ってみてはいかがでしょうか。

■参考文献

1. <http://www.8020zaidan.or.jp/about/index.html>.
2. Iwasaki M, et al. Community Dent Oral Epidemiol. 2014; 42: 441-50.
3. Wakai K, et al. Community Dent Oral Epidemiol. 2010; 38: 43-9.

常念診療所での活動

看護部 下村 陽子 内田 緑



小説家で登山家でもあった深田久弥は「松本から大町へ向かって安曇野を走る電車の窓から、もしそれが冬であれば、前山を越えてピカリと

光る真白いピラミッドが見える。私はそこを通るごとに、いつもその美しい峰から眼を離さない。」と常念岳の美しさを表現しています。まさに安曇野を代表する山です。そこに信州大学医学部山岳部の学生が運営する常念診療所があります。1986年診療所開設から現在まで多くの医師や看護師、学生などボランティアで集まる医療スタッフに支えられて現在に至っています。

毎年7月中旬から8月中旬の開所中は信州大学医学

部附属病院だけでなく、県内外からの医療スタッフが診療に参加しています。山が好きな人、山岳診療を体験したい人、体力のバロメーターにしている人など動機は様々ですが、毎年登山を楽しみにしています。

診療所の開所中は、およそ45～75名程度の登山者が受診されます。山の診療所といっても昔とは違い、今は緊急時や診断補助のために信大病院高度救命救急センターとオンライン遠隔医療体制が整備されています（写真）。診療所を訪れた際2500m近い山の上でこのようなシステムが整備されていることを知った時は驚きました。この体制が整ったことで診療所のスタッフも信大病院の医師からの確かな指示を受けられ、迅速に対応できるので安心して診療ができています。なにより登山者の無事を祈りつつ、看護部は、後方支援として医療物品補充など開所中の診療所の活動をサポートしていく所存です。



常念診療所



タブレットを使用してテレビ電話で繋がる常念診療所（左）と高度救命救急センター

ご意見箱からの声

Q 病院玄関前にある裸婦のブロンズ像が、蜘蛛の巣や土埃で汚れています。

著名な作家の作品なので、もっと大切に保存すべきです。

A 貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。

病院正面玄関前に設置されているブロンズ像を改めて確認しましたところ、ご指摘いただきました通り、蜘蛛の巣等の汚れがありましたので、さっそく業者に掃除を依頼するとともに、今後定期的に確認していくことといたしました。



電話番号表 (市外局番 0263) 代表番号：35-4600

【診療科外来】

南 1 階	小児科	37-2776	南 3 階	眼科	37-2789	リハビリテーション部(理学療法)	37-2836	
	遺伝子医療研究センター			耳鼻いんこう科	37-2791			
	先端心臓血管病センター			産科婦人科	37-2793	リハビリテーション部(作業療法)	37-3399	
	循環器内科			皮膚科				
	整形外科			37-2785	消化器外科		通院治療室	37-2552
	脳神経外科				移植外科	37-2778	医療福祉支援センター	37-3370
総合診療科		小児外科	37-2781	高度救命救急センター	37-2222			
南 2 階	呼吸器・感染症・アレルギー内科	37-2768	北 2 階			呼吸器外科	37-2783	胸痛センター
	消化器内科			乳腺・内分泌外科	37-2783			
	血液内科			37-2770	麻酔科蘇生科	37-2831	臨床研究支援センター	37-3389
	腎臓内科			37-2773	形成外科	37-2846		
	脳神経内科				精神科	37-2846	移植医療センター	37-2930
	リウマチ・膠原病内科				子どものこころ診療部	37-3381		
糖尿病・内分泌代謝内科		泌尿器科	37-2787					
放射線科		特殊歯科・口腔外科	37-2796					

【医事課】

収 入 係	37-2763
入 院 係	37-2759
外 来 係	37-2757

【医療支援課】

患者サービス係 (診断書・労災)	37-2762
---------------------	---------

【病棟スタッフステーション】

西 病 棟		階	東 病 棟	
【先端心臓血管病センター】 循環器内科	37-2777	8階	糖尿病・内分泌代謝内科 乳腺・内分泌外科	37-2769
脳神経内科、脳神経外科 リウマチ・膠原病内科	37-2774	7階	消化器内科、血液内科 腎臓内科	37-2771
皮 膚 科	37-2788	6階	【呼吸器センター】 呼吸器・感染症・アレルギー内科 呼吸器外科	37-2784
消化器外科、消化器内科 移植外科、小児外科	37-2782	5階	眼科、脳神経外科 麻酔科蘇生科	37-2790
産科婦人科 新生児科(NICU・GCU)	37-2772	4階	小 児 科 婦 人 科	37-2794
精 神 科	37-2775	3階	整 形 外 科	37-2786
放射線科、消化器外科、移植外科 小児外科、特殊歯科・口腔外科、RI 信州がんセンター、救急科	37-2780	2階	耳 鼻 い ん こ う 科 形 成 外 科	37-2792



☆相談窓口☆

受付時間：月～金（祝除く）
9時～16時

くすりの相談室	37-3013	地域医療連携支援室	37-3370
総合医療相談室	37-3370	難病相談支援センター	34-6587
がん相談支援センター	37-3045	難聴児支援センター	34-6588
セカンドオピニオン外来	37-3111	肝疾患診療相談センター	37-2922
先端細胞治療センター (分子細胞診療室)	37-3220		

編集後記

猛暑になると覚悟していましたが、曇りや雨が多く、天候不順で、野菜や稲の作柄が気になる昨今です。集団食中毒のニュースもあり、体調をくずしやすい時でもあります。皆様はいかがお過ごしでしょうか。

今回のハミングは、信大病院と外部との関わりの記事が多くなりました。長野県唯一の大学病院として、今後も地域や国内外との関わりを大切にしながら診療してまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。
(入退院支援室 伊藤 喜世子)

あなたの自慢の写真で「ハミング」の表紙を飾りませんか？ 写真を募集しております！

お名前・写真のタイトルをご記入の上、
byouin_soumu@gm.shinshu-u.ac.jp

へお送りください。
写真は2MB以上5MB未満のjpgデータ

【お問合せ・応募宛先】

信州大学医学部附属病院 総務課 総務係
TEL：0263-37-3410 ※応募はメールのみ受付